

新春座談会

の確保、生産者の技術、意欲、土地をどう整備して次に引き継いだらいいのか、そして消費者から信頼される農産物作りということも出てくるでしょう。そこで組合長、将来に向かっているのか、いかがでしょうか。

板谷 基盤整備で田んぼが変わるといことは、経営が変わる、農機具も変わる、ということ、過剰な機械投資を避けていくということをしつかりと見定めていかないと、形が変わった時に農業者が能力を發揮できるような環境に出来るかどうか考えていかないとけない。水田の形が変わった後一番の大きな問題として、経営のあり方をきちんと町内議論を高めていく必要があることではないのかな。

東川町は米と野菜の町なので、水田を個人でやるのか共同でやるのか、面積を増やすのか、面積を増やさないで野菜を取り入れてやるのか、どのような形で労力配分をきちんとするのか、町内合意をきちんと求め、考えていくことが大事なことでないか。

それが出来なければ、労力が余って助かったというだけで所得は増えてしまいかねない。そのようなことも含めて、共同型にするのか、雇用型にするのか考えなければならぬ。

この基盤整備はそういうところにつながっていくし、昨日まで看護婦さんをしていた人にすぐに畦（あぜ）に立て、という話にもならないし、考え方を考えていかなければうまくない。

高橋 うちのお嫁さんは、農業をしたことがないから、実際に農業を見ている。嫁いで昨年帰って来ま

ない。経費を掛けて水田が大きくなった分だけ支払いが出てくるから、大きくマイナスの要素が出てくる。大きくなるということだけに期待を寄せているのでは方向性が少し違うということを考えて、農協なりに関係団体と協力しながら議論のたたき台を作りたい。それが大きな仕事になるのではないかな。

松岡 基盤整備をやれば労働力が余ってくる、しかし規模拡大ばかりも出来ない。自分の経営パターンをどうするか見定めるべきだ、というご意見だと思いますが、今基盤整備の話し合い進捗状況はいかがですか。

高橋 昨年は8月に地区別懇談会をまず5カ所行いました。その後再度11月に町内25カ所で説明を行ってききました。その経過で賛同をいただいているのは、耕作者がおよそ8割。面積ではおよそ9割が参加したいと意思確認出来ています。当初目標の3千町に近い面積をすでに達成しており、大きな目標は達成できると考えています。今後3年間の地区調査でいろいろなモデル設計、調査区ごとの設計などに入っていくわけで、さらに賛同いただけるように努力していきたいと考えています。

基本は東川の農地をすべて優良な農地に再度造り変えるということですが、昭和30年代から土地改良で暗きよだとか小排水整備に繰り返し投資

たから、ご飯支度とかをまずお願いしているんですが、家族が6人もいと味付けをどうしたらいいのかお嫁さんにしたら苦労もあるようです。まずは農業を見て慣れてもらうということが重要だと思います。

板谷 お嫁さんに働いてもらうにしても、きちっとした価値観を認めて、どういう具合に給料として払っているかということがないとだめなんだよね。

高橋 水稲が中心になるのは間違いないが、大豆、そば、露地野菜が転作として入ってくるのも事実で、そういうものも作付けしていかねばならない。水稲だけに偏っても経営として安定しづらいことになって

してきました。しかしどうしても透水性を整備しきれない現状もありました。基盤整備によって透水性の良い水田または転作田、露地野菜を作れる農地など、優良な農地を再生することに尽きるとしています。そうすれば組合長が言われているように、あらゆる作物に対する体系が出来やすくなる。生産性も農家所得も上がっていくと思います。

農家戸数が減ってそこに農地が張り付いていくわけですから、何より単位当たり収量が落ちるようなことになってはいけません。生産者個々に合った設備投資と生産技術、作物選定によって、ベストミックスの提示がされるべきだと思います。それを踏まれば15年先の事業終了時点で、また新たな農地確保に速やかに移行できると思います。

林 今のところ目標は約3千町を10年間で工事し、1年間約300町が目標です。1カ所30町で年間10カ所という計算になります。そのように予算が付いてくれれば良いと思っています。

3年調査で法的手続きに少なくとも1年、最終的な換地調査まで含めて15年かかるといわれています。水田1枚の大きさは、5町を1単位にして1枚2・5町で2枚くらいになります。

農地が大型化すると今の機械では役を果たさない。しかし、個人で機

くるんだと思います。水田の面積が大きくなったから単純に水田だけ大きく目指していけばいい、というのはちよつと違うのではないかと。40町、50町となると転作は必然じゃないでしょうか。施設野菜も手掛ける必要があるかもしれません。大きなほ場を管理して所得を安定的に得るためには、転作は一つの選択肢になりま

松岡 年金受給者の方のある意味の生きがい対策のようになりませんか。幼児センターに子供を通わせている女性の方々は、保育所に預けたあとの時間に働く場所がないと聞くので、そんな方にとつても働く場になれば。そこで知り合いもできるだろうからストレス解消にもなる。組合

械を入れるとコストがかかるので、法人化して何人かで整備することによつて余剰労力を他に向けられるようにしていかないと、昔基盤整備した時に機械利用型の生産組合法人を作った時のように投資の削減を図っていきたく思います。

松岡 そういう大きな水田が出来、東川農業の持続ということを考える時、若い青年部の皆さんの配偶者をどうするか。配偶者対策をどのようにしたらいいでしょうか。

宮崎 農協青年部では今、「婚活」にも力を入れてやっているんです。そして（出会いイベントを実施すると）女性の母親も一緒についてきて選ぶ、ということが出てきたと聞いています。そんな状況ですから、農家の嫁として入って来て、いきなり農作業をしろ、と言っても問題がある。子育てに10年はかかるとして、欲が出てきたら自然に作業をしてもらう、という環境づくりが必要ではないかと思っています。ただしすぐに嫁さんを見つめる、というのは難しいですね。（笑）

板谷 今までのように家族労働だけで、という考え方は、今後は1枚の田植えで2日も3日もかかってしまうので、こつちで植えていたら、向こうの方はすつかり乾いて、こつちはしなびている、ということにな

長のところは2・5ヘクタールから始まって今100ヘクタールとアメリカンドリームならぬ東川ドリームを実現しているわけですが、年間どれくらい人を雇っているんですか。

板谷 春の人数は30人くらいいると思うんだ。夏は息子と若い人合わせて3人。秋になると機械に5人、工場に4人。それで足りている。代かきはうちの機械だけで間に合わないから、3台入ってもらって、すべて任せてひと春に150万円くらい払っているかなあ。労賃は息子の賃金を入れて年間千万円ちよつとくらいになるかな。

本当に人手が足りずに派遣を頼むのは年間に2〜3人。毎年来る人が決まっているので、それでうまく動



いたやしげのり
板谷重徳さん
東川町農業協同組合組合長。旭川市出身、66歳。旭川市立光陽中学校卒業。1976(昭和51)年、(有)板谷農場を設立。水稲中心の大規模稲作農業(水稲100・6畝、畑作6・1畝など=22年度)



たかはしあきのり
高橋昭典さん
東川町議会議員(2期目)、大雪東川地区国営緊急農地再編整備事業促進期成会長。東川町出身、57歳。北海道旭川農業高等学校卒業。家族7人で25畝を経営する稲作専業農家。



はやし つぎお
林次男さん
東和土地改良区理事長(1期目)。上川中央土地改良区連絡協議会々長など。東川町出身、72歳。東川村立東川中学校卒業。稲作中心に6・5畝のうち1畝を作付け。



みやざき まさし
宮崎正志さん
東川町農業委員会々長(3期目)。農業委員会連合会中央ブロック上川地方農業委員会連合会役員。東神楽町出身、64歳。旭川実業高等学校卒業。家族3人で稲作中心に31・5畝を経営。

(五十音順)